



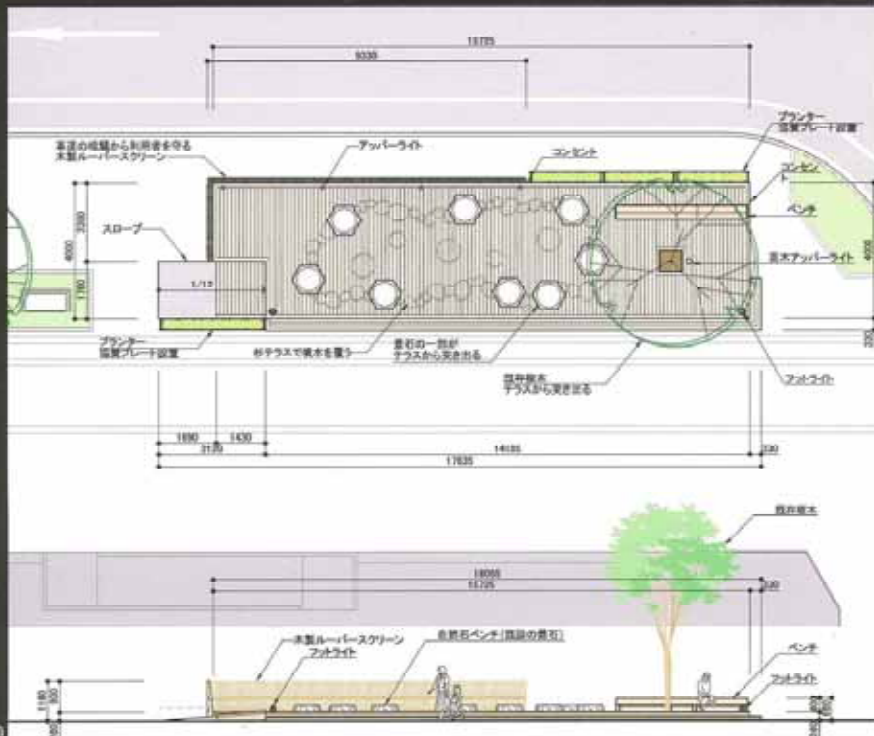
宮崎市内の玄関口である高千穂通り。  
JR宮崎駅から真っ直ぐに東西に伸びる県道は、宮崎県のシンボルロードの一つとしてまた県都の正面玄関として県民に親しまれてきた。  
しかしながら中心市街地の空洞化、郊外に大型ショッピングセンターが進出してきたことなどが要因となり近年どこか淋しい。またムクドリの糞害などが拍車をかけ、次第に元気がなくなってきた。  
平成18年度に、高千穂通りの住民・事業者・行政やNPO関係者等が集まり、「高千穂通り」を何とかしたい!というところからワークショップが開催された。  
そこで見えてきたいろんな課題——。平成17年度に発生した台風14号の被害で浄水場が被害を受け、宮崎市民への給水が困難な状況になった。その時まで稼働していた水のモニュメント(噴水施設)も「水の無駄だ」という観点から運転を停止してしまった。その後、ムクドリの糞が、噴水のフィルターを覆ってしまう。  
噴水の修理に要する費用は約200万円。噴水のメンテナンスに要する費用は年間約40万円。今更再開することは困難だ。  
そこで生まれたとんでもない計画、それが「T-terrace・プロジェクト」だ。予算はゼロ。道路の使用に関する許認可、景観条例、道路交通法etc…クリアしなければならない課題山積みの中、企画から計画づくり、そして運営と管理までの仕組みを創り上げるモデル事業がスタートした。



位置図



使われなくなった噴水施設だが維持だけで4



平面・立面図 S=1:150



**T-terrace (T-terrace)**  
T=高千穂通り、大地、段丘、路  
テラス=大地、段丘、路  
にちなんで  
"高千穂通りを想い  
の歌味が込め

◀ デザインプロセス  
▼ 様々なシーン





## 地場材で問題を解決する

concept

市民の、市民による、誰もが立ち寄りたくなる  
「サードプレイス」創出

サードプレイス：自宅と職場の間にある第三の場所

### 社会実験「T-テラス」の4つのsubject

- 1) 使われなくなった噴水設備の一部（金属部）を撤去して、全面を覆うように“杉のテラス”を設置。既存高水や景石の一部はそのまま生かして、テッキテラスを飾る。
- 2) テラスの設置により、放置自転車を駆逐。
- 3) 街路に開かれたイベントスペースとし、これを積極的に活用することで、高千穂通りの活性化を図る。
- 4) 地域住民・事業者・行政・NPOといった様々な主体の協働による、民活型の社会実験。地域から協賛金を募り、その資金で建設から企画・運営と維持管理を行っていく。「高千穂通りを愉しめる会」（会長/宮崎大学・吉武哲司准教授、事務局/NPO法人宮崎文化本舗）がこれを公正に運営する。



街角に開放と取れたT-テラス。杉を主体に全て地産材を採り、ライトアップ照明やイベント用のコンセントも備えた多目的活用



**(T-テラス)**  
「トータル・Together」  
「区、民、商店、民間、大企業」  
「多様な主体が協働して  
「多様な主体が協働して  
「多様な主体が協働して」  
が込められた。

杉を主体に全て地産材を採り、ライトアップ照明やイベント用のコンセントも備えた多目的活用

